

2026年3月期 第1四半期 決算説明会

東海旅客鉄道株式会社

2025年7月29日

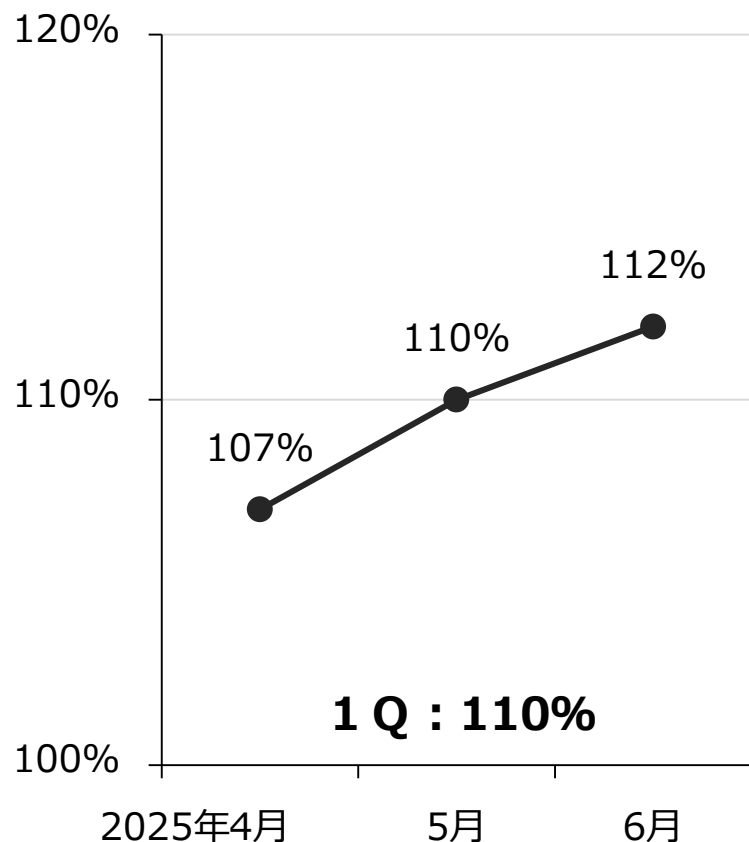
目 次

I	2026年3月期第1四半期	決算実績等	… 3
II	各種施策の状況		…10
III	中央新幹線計画の状況		…14

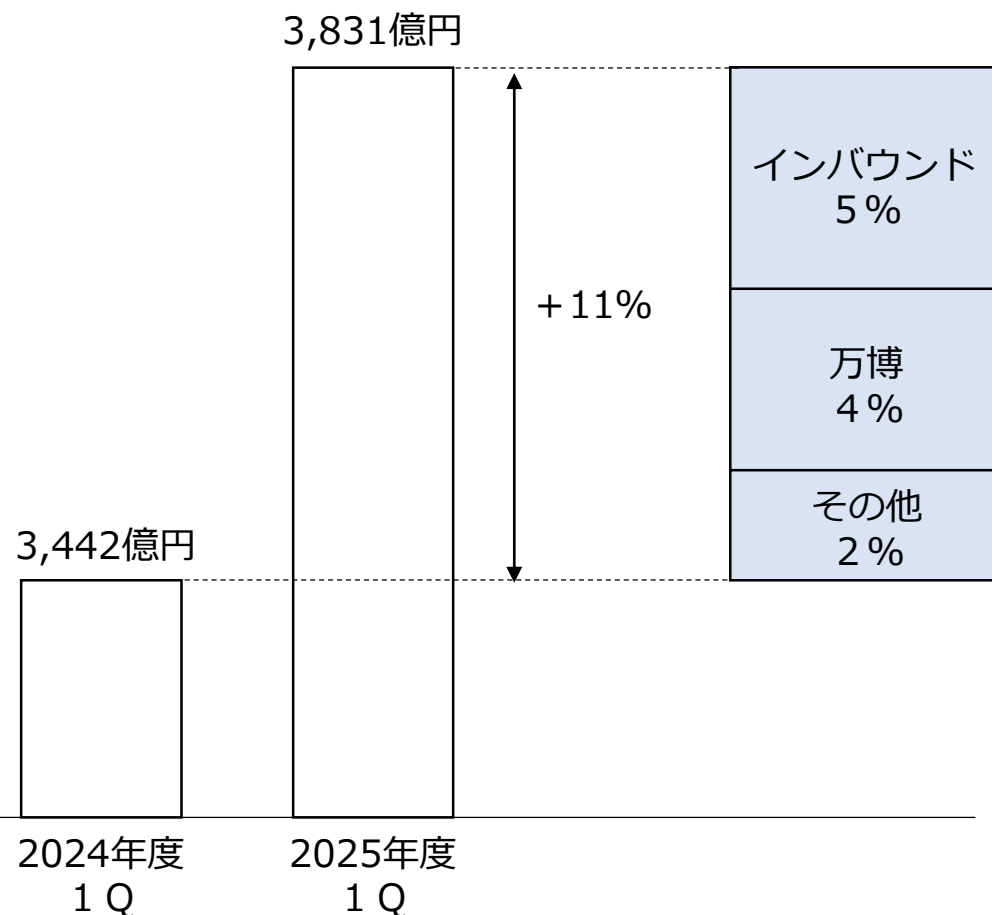
I 2026年3月期第1四半期 決算実績等

東海道新幹線のご利用状況と運輸収入

■ 東海道新幹線のご利用状況 (東京口断面輸送量、2024年度比)



■ 運輸収入（幹・在）の比較



- 第1四半期はご利用が好調に推移し、2024年度比で110%（2018年度比105%）
- 運輸収入は2024年度比で111%（+11%の内訳はインバウンド5%、万博4%、その他2%（ビジネス需要の増等）と推計）

- 大阪・関西万博の開催に伴い、東海道新幹線では需要にあわせた弾力的な列車設定を実施
- 首都圏⇔新大阪および名古屋⇔新大阪のご利用が全体のトレンドよりも高い水準で推移し、運輸収入に対して約140億円の増収効果があったと推計

【実績】第1四半期における効果

※ インバウンドを含む

4/13～6/30 (79日間)	首都圏⇔新大阪	名古屋⇔新大阪	1Qにおける効果
増収額	+120億円	+20億円	+140億円

【参考】業績予想時の想定

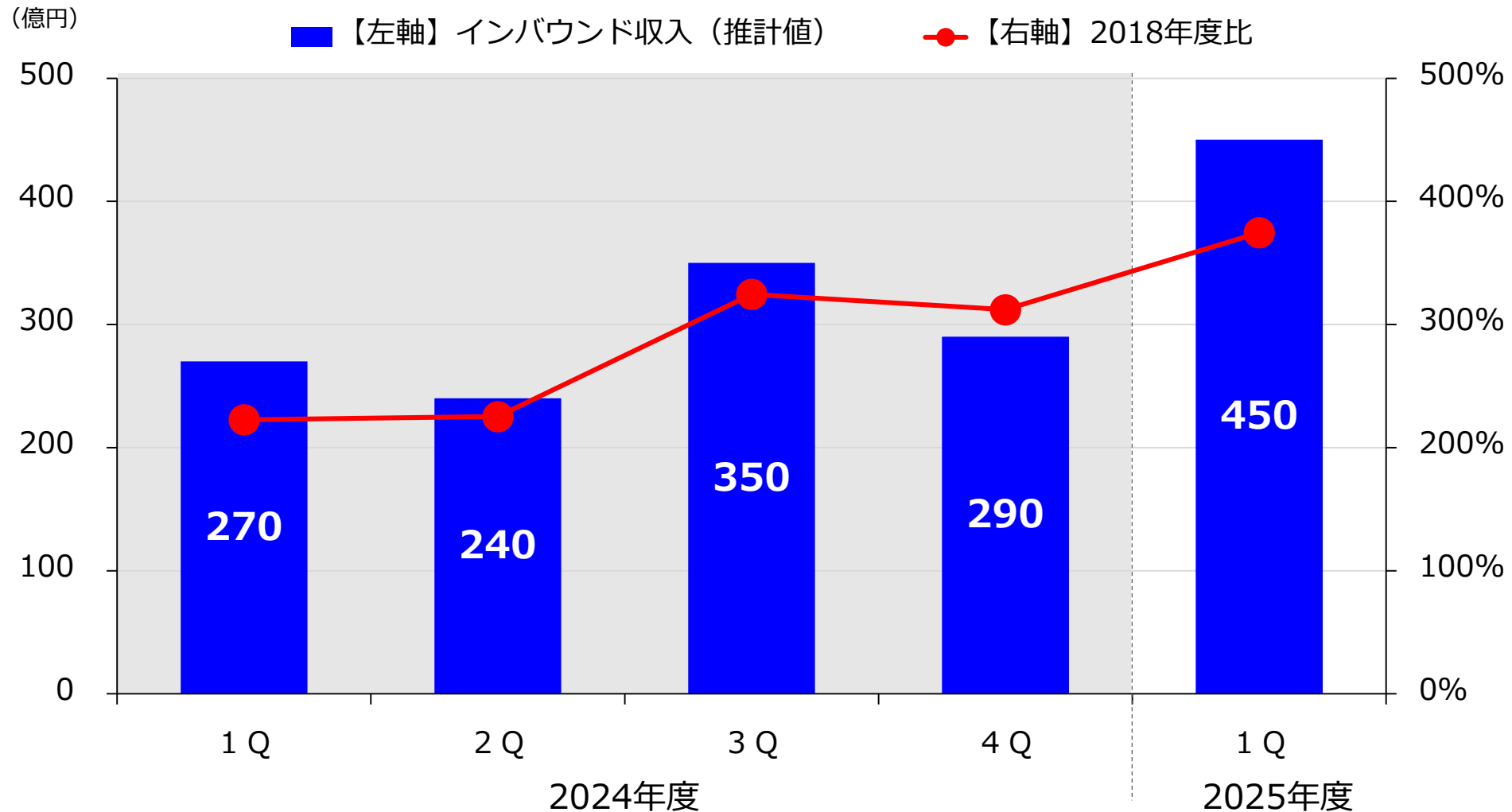
4/13～10/13 (184日間)	首都圏⇔新大阪	名古屋⇔新大阪	想定額
増収額	+155億円	+45億円	+200億円

インバウンドの状況

6

○ 1 Q インバウンド収入（推計値）は約450億円

※インバウンド収入（推計値）は10億円未満切捨

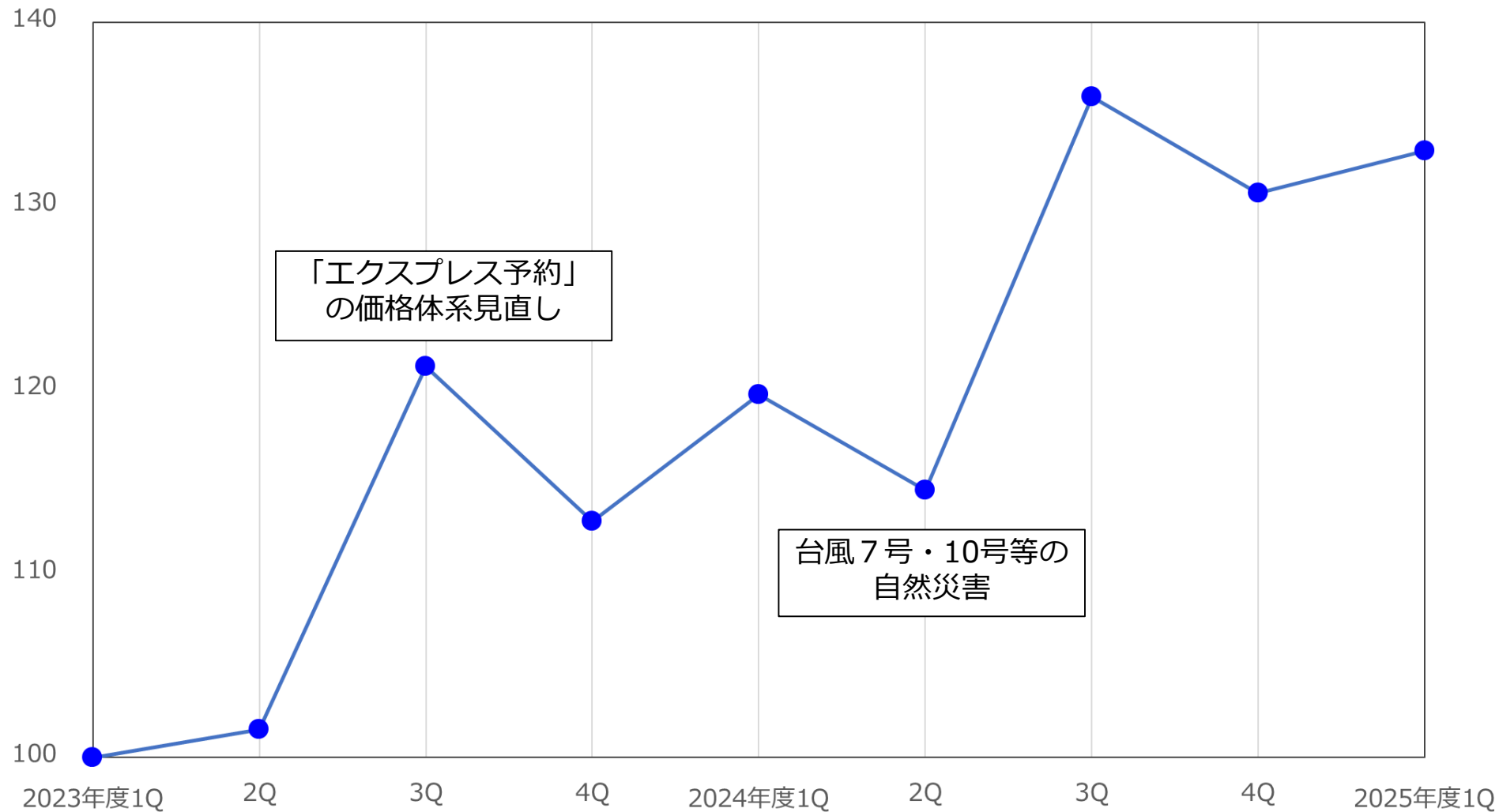


東海道新幹線のビジネス需要の状況

7

○ 「エクスプレス予約」の主要な法人会員の利用実績は増加傾向

■ EX法人会員（主要200社）利用額の推移（平日1日平均、2023年度1Qを100とする）



比較第 1 四半期損益計算書【連結】

8

(単位 億円、%)

	2024年度	2025年度	増減	前期比	主な増減要因
営業収益	4,352	4,782	429	109.9	
運輸業	3,575	3,962	387	110.8	運輸収入の増
流通業	388	411	23	106.0	駅店舗の売上の増
不動産業	124	129	5	104.3	駅商業施設の賃料収入の増
その他	265	279	13	105.3	鉄道車両等製造業の売上の増
営業費	2,509	2,570	60	102.4	
営業利益	1,843	2,212	368	120.0	
営業外損益	△ 130	△ 136	△ 6	104.9	
営業外収益	72	70	△ 1	97.3	
営業外費用	203	207	4	102.2	
経常利益	1,712	2,075	362	121.2	
特別損益	△ 1	△ 2	△ 0	144.3	
税金等調整前四半期純利益	1,711	2,073	361	121.1	
法人税等	504	610	106	121.1	
四半期純利益	1,207	1,462	255	121.2	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	9	10	1	113.0	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,197	1,452	254	121.2	

(注) 営業収益の内訳は、セグメント別の外部顧客への売上高

比較第 1 四半期損益計算書【単体】

9

(単位 億円、%)

	2024年度	2025年度	増減	前期比	主な増減要因
営業収益	3,626	4,015	389	110.7	
うち運輸収入	3,442	3,831	389	111.3	新幹線+377、在来線+12
営業費	1,871	1,902	30	101.6	
人件費	453	470	16	103.6	ベースアップによる増、退職給付費用の減
物件費	853	864	10	101.3	
動力費	134	143	9	107.0	電力単価の増
修繕費	262	254	△ 7	97.2	
業務費	456	465	8	101.9	
租税公課	111	113	2	101.8	
減価償却費	453	455	1	100.3	
営業利益	1,754	2,113	359	120.5	
営業外損益	△ 135	△ 144	△ 8	106.6	
営業外収益	70	68	△ 1	97.4	
営業外費用	205	213	7	103.5	
経常利益	1,618	1,968	350	121.6	
特別損益	2	2	0	103.4	
税引前四半期純利益	1,621	1,971	350	121.6	
法人税等	476	580	103	121.7	
四半期純利益	1,144	1,390	246	121.6	

Ⅱ 各種施策の状況

収益拡大

業務改革

■需要創出

- ・昨年度の増収（百数十億円と推計）を上回る効果を目指し、取組みを展開



薬屋のひとりごと×JR東海 TAKARAZUKA STAR EXPRESS
猫猫、壬氏の京都たび（1編成貸し切り新幹線ツアー）



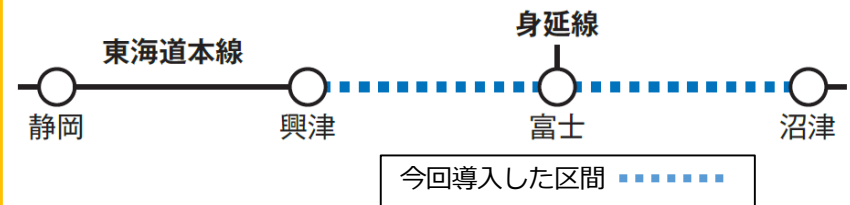
■価格戦略

- ・上級クラス座席の導入、グリーン車のサービス向上に向けた取組みを推進
- ・新幹線自由席特急料金の届出化やインフレによるコスト増を柔軟に運賃・料金に転嫁できる制度の導入に向けて、引き続き国に要望



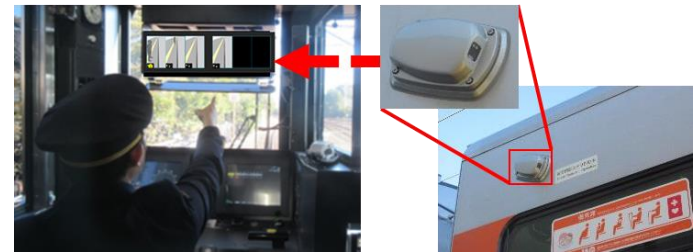
■お客様サポートサービス

- ・2025年6月に東海道本線（沼津駅～興津駅）でサービス開始



■315系4両編成でのワンマン運転

- ・2026年春頃から関西本線（名古屋駅～亀山駅）、武豊線で実施予定



車側カメラを用いたワンマン運転

- 新たな業務改革件名や既存件名の効果拡大に取り組む

- 新幹線・在来線ともにインバウンドを含めて多くのお客様にご乗車いただくなど、ご利用が堅調に推移していることから、さらなる輸送サービスの充実のため、車両を追加投入する
- 新幹線車両「N700S」⇒2編成を追加投入
 - ・ご利用二ーズにあわせたさらなる弾力的な列車設定が可能に
 - ・自然災害等の輸送障害時に早期の遅延回復に資する



■新幹線車両「N700S」投入編成数

年度	2026年度まで	2027年度	2028年度	計
当初計画	63	7	6	76
新たな計画	63	8	7	78

- 在来線特急車両「HC85系」⇒6両を追加投入
 - ・ご利用二ーズにあわせたさらなる弾力的な増結や増発が可能に



■在来線特急車両「HC85系」投入車両数

年度	2023年度まで	2027年度	計
当初計画	68	-	68
新たな計画		6	74



コートヤード・バイ・マリオット京都駅

2026年度開業予定



コートヤード・バイ・マリオット京都四条烏丸

2025年8月27日開業予定



ヒルトン高山リゾート

2026年秋にリブランド開業予定



ホテル 寧 奈良
(アンバウンド コレクション by Hyatt)

2030年度開業予定

- 鉄道事業との相乗効果を追求し、沿線の観光都市でホテル開発を実施
- 外資系ホテルブランドと提携することで国内外のお客様への訴求力を向上

Ⅲ 中央新幹線計画の状況

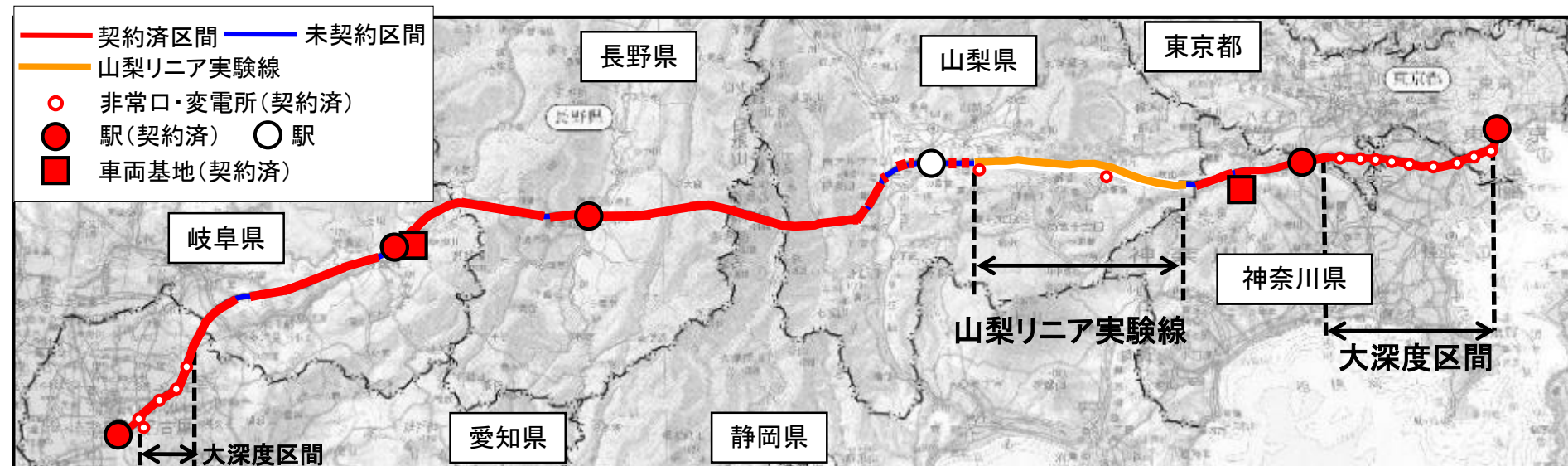
中央新幹線計画の状況①

15

【本体工事契約箇所（2025.6.30現在）】

※本体工事契約区間等は概ねの位置を示したものです。

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の100万分の1日本を複製したものです。（承認番号 平25情複、第310号）



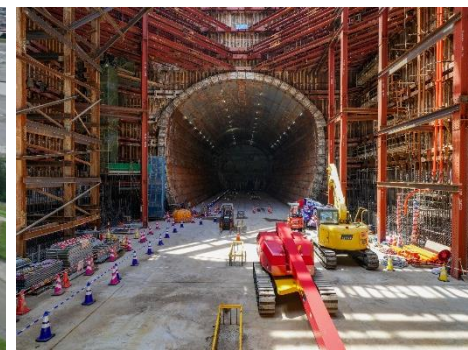
第一中京圏トンネル
(坂下西工区)
発進式



伊那山地トンネル
(戸中・壬生沢工区)
本坑の貫通状況



釜無川橋りょう
上部工



神奈川県駅 (仮称)
函体構築工

【南アルプストンネル 静岡工区】

《大井川の水資源及び南アルプスの生態系等の環境保全に関する取り組み》

- 水資源と環境保全に関する国土交通省の有識者会議の報告書に基づいて、静岡県等と対話を重ねています。
- 6月2日に開催された地質構造・水資源部会専門部会において、静岡県との対話が必要な項目のうち、水資源に関する全ての項目の対話が完了しました。また、発生土置き場については、通常土に関する対話が完了しました。
- 7月27日に大井川流域8市2町の首長との意見交換会を開催し、当社から、静岡県との対話状況や、山梨県内の先進坑の掘削状況等についてご説明のうえ、意見交換を行いました。
- 環境保全や要対策土の取扱いについても、引き続き丁寧かつスピード感を持って、静岡県との対話を進めていきます。

《リニア中央新幹線静岡工区モニタリング会議》

- 6月6日に開催された第7回「リニア中央新幹線静岡工区モニタリング会議」において、当社から、静岡県との対話状況等について報告しました。



大井川流域8市2町の首長との意見交換会

本資料に記載されている将来の計画や見込み数値等は、当社が現在入手可能な情報に基づく見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。潜在的なリスクや不確実性の例としては、経済動向や事業環境、消費動向、当社および子会社における他社との競合状況、法律や規制等の変更等が挙げられます。

(参考) 2026年3月期第1四半期セグメント情報

(単位 億円、%)

	2024年度	2025年度	増減	前期比
営業収益	4,352	4,782	429	109.9
運輸業	3,603	3,992	389	110.8
流通業	411	433	22	105.4
不動産業	203	238	34	117.1
その他	531	577	45	108.6
調整額	△ 396	△ 458	△ 61	115.6
セグメント利益 (営業利益)	1,843	2,212	368	120.0
運輸業	1,735	2,093	357	120.6
流通業	34	32	△ 2	92.4
不動産業	61	69	7	112.7
その他	5	23	18	457.2
調整額	6	△ 5	△ 12	—

(注) 1. セグメント別の営業収益は、外部顧客への売上高のほか、他セグメントへの売上高を含む

2. 「調整額」欄は、セグメント間取引の相殺消去

(参考) 主な子会社の実績・業績予想 (連結修正前)

○実績

(億円)

	営業収益			営業利益			経常利益		
	2024年度 1Q実績	2025年度 1Q実績	前期比	2024年度 1Q実績	2025年度 1Q実績	前期比	2024年度 1Q実績	2025年度 1Q実績	前期比
JR東海高島屋	158	149	94. 6%	23	14	62. 4%	24	15	64. 3%
JRセントラルビル	78	82	104. 5%	8	10	120. 3%	8	10	123. 4%
JR東海ホテルズ	69	73	106. 0%	9	7	80. 7%	9	7	80. 4%
日本車両	208	229	110. 1%	1	14	999. 9%	3	18	474. 2%
				日本車両	四半期純利益		5	14	276. 9%

○業績予想

(億円)

	営業収益				営業利益				経常利益			
	2024 年度 実績	2025 年度 計画 (前回)	2025 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回	2024 年度 実績	2025 年度 計画 (前回)	2025 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回	2024 年度 実績	2025 年度 計画 (前回)	2025 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回
JR東海高島屋	636	638	638	100. 0%	89	77	77	100. 0%	92	80	80	100. 0%
JRセントラルビル	341	348	348	100. 0%	36	30	30	100. 0%	40	32	32	100. 0%
JR東海ホテルズ	282	291	291	100. 0%	23	13	13	100. 0%	24	13	13	100. 0%
日本車両	942	920	958	104. 1%	65	54	63	116. 7%	69	58	69	119. 0%
					日本車両	当期純利益			61	58	65	112. 1%

(参考) 輸送量の推移 (月次利用状況・多客期利用状況)

◆月次利用状況 Monthly passenger volume

(%)

期間 Period	新幹線 Shinkansen							在来線 Conventional Railway	
	東京口 Tokyo Gate						大阪口 Osaka Gate	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	平日 Weekdays	土休日 Weekends	合計 Total		
25/04	107	108	108	105	109	105	109	105	103
25/05	110	110	110	107	110	106	113	108	102
25/06	112	114	111	106	110	118	117	106	105
25/04-06	110	111	110	106	110	110	113	106	103

◆多客期利用状況 (東京口) Passenger volume during the peak holiday seasons (Tokyo Gate)

・ゴールデンウィーク “Golden Week” Holidays

期間 Period	新幹線 Shinkansen				在来線 Conventional Railway	
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area
4/25～5/6	105	105	107	103	102	103

(※) 新幹線・在来線特急等は特定の駅間における月累計断面輸送量の対前年比。

在来線名古屋近郊は自動改札集計による乗車人員合計の対前年比。※多客期においては定期外の乗車人員に限る。

Note: The data of the Shinkansen and Express is based on the total passenger volume of each month at certain points.

The data of the Nagoya area is based on the passenger ridership of each month counted by automatic ticket gates.

※The data of the Nagoya area regarding the peak holiday seasons is based on the passenger ridership excluding commuter passes.

(参考) 月次営業概況（商業施設・ホテル）

◆商業施設

Commercial Facilities

	ジェイアール名古屋タカシマヤ、及び タカシマヤ ゲートタワーモール JR Nagoya Takashimaya and Takashimaya Gate Tower Mall	
期間 Period	売上高合計 2026年2月期 (百万円) Total Sales FY2025: 2025.3~2026.2 (Millions of Yen)	前年同月比 (%) YoY Comparison
25/03	19,690	102.8
25/04	16,689	102.3
25/05	16,674	95.9
25/06	17,074	93.2

◆ホテル

Hotels

	名古屋マリオットアソシアホテル Nagoya Marriott Associa Hotel		名古屋JRゲートタワーホテル Nagoya JR Gate Tower Hotel	
期間 Period	稼働率 (%) Occupancy Rate	前年同月比 増減 YoY Inc./Dec.	稼働率 (%) Occupancy Rate	前年同月比 増減 YoY Inc./Dec.
25/04	80.7	1.2	84.6	0.5
25/05	75.8	-1.7	83.3	2.3
25/06	74.1	-2.1	84.7	-1.9

(※) 各月の数値は速報値のため、確定値とは異なる場合がある。

Note: The number for each month comes from a quick estimation, which might differ from the actual results.